

## 家庭教育支援の推進に関する検討委員会について

生涯学習政策局男女共同参画学習課

## 1. 趣旨

家庭教育支援に関する社会全体の動向や課題の整理、これまでの施策の効果検証等を行うとともに、家庭教育支援の在り方についての検討を行い、その結果を次期教育振興基本計画の改訂に反映し、今後の施策の展開に役立てることとする。

## 2. 審議経過

- 平成23年 6月 3日（第1回）審議内容：（1）家庭教育をめぐる社会全体の動向や課題の整理  
 6月24日（第2回）審議内容：（2）これまでの家庭教育支援施策の検証・評価  
 8月31日（第3回）審議内容：（2）これまでの家庭教育支援施策の検証・評価  
 10月19日（第4回）審議内容：（3）今度の家庭教育支援の在り方に関する検討  
 ※施策評価の総括、論点整理  
 11月24日（第5回）審議内容：（3）今度の家庭教育支援の在り方に関する検討  
 ※骨子（案）の審議  
 12月20日（第6回）審議内容：（3）今度の家庭教育支援の在り方に関する検討  
 ※骨子（案）の審議  
 平成24年 2月 7日（第7回）審議内容：（3）今度の家庭教育支援の在り方に関する検討  
 ※まとめ（案）の審議  
 3月 1日（第8回）審議内容：（3）今度の家庭教育支援の在り方に関する検討  
 ※まとめ（案）の審議  
 3月15日（第9回）審議内容：（3）今度の家庭教育支援の在り方に関する検討  
 ※まとめ（案）の審議

## 3. 委員名簿（※は座長）

- |        |                                      |
|--------|--------------------------------------|
| 相川 良子  | NPO 法人ピアサポートネットしづや理事長                |
| 伊藤亜矢子  | お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科人間科学系准教授          |
| 木村 義隆  | 新潟県南魚沼市家庭教育支援チーム総括コーディネーター           |
| 工藤あゆみ  | 青森県教育庁生涯学習課社会教育主事                    |
| ※汐見 稔幸 | 白梅学園大学学長                             |
| 鈴木みゆき  | 和洋女子大学人文学群心理・社会学類人間発達学専修こども発達支援コース教授 |
| 松田 恵示  | 東京学芸大学芸術・スポーツ科学系教授、文部科学省生涯学習調査官      |
| 松原 康雄  | 明治学院大学副学長・社会学部教授                     |
| 山野 則子  | 大阪府立大学人間社会学部大学院人間社会学研究科教授            |
| 山本 健慈  | 和歌山大学学長                              |

# 家庭教育支援の推進に関する検討委員会 報告書の概要

つながりが創る豊かな家庭教育 ～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～

## I. 家庭教育をめぐる現状と課題

### 家庭教育をめぐる社会動向

- 1) 家庭環境の多様化や地域社会の変化
  - ・多様化する家庭が抱える様々な課題（経済的問題、児童虐待、過干渉や過保護）
  - ・自然な教育的営みが困難になった家庭生活の変化
  - ・子育て家庭の社会的孤立
- 2) 現代の子どもの育ちをめぐる課題
  - ・社会性や自立心等の育ち（不登校、暴力行為、ニート）
  - ・体験の格差や経済格差の子どもの育ちへの影響懸念
- 3) 家庭教育が困難になっている社会
  - ・家庭の教育力の低下と認識されているが、家庭は家庭教育に努力している傾向
  - ・親子の育ちを支える人間関係が弱まっており、社会経済も変動しており、「家庭教育の困難」と認識する必要
  - ・家庭教育が困難な家庭への支援は重要な社会的課題

### 家庭教育支援の課題

- 1) 子の誕生から自立までの切れ目のない支援
  - ・乳幼児期は人間形成に重要だが、子育ての自信や対処能力が不足しがち、また自立の時期の支援も重要
- 2) 届ける支援（アウトリーチ）と福祉等との連携
  - ・課題を抱えた家庭が児童虐待等、課題が深刻化することのないよう、孤立しがちな家庭へ届ける支援が必要
  - ・困難な課題を持つ家庭には、専門的支援、福祉的支援のための支援のネットワークが必要
- 3) 多様な世代が関わり合う社会で、子どもの育ちを支える
  - ・コミュニケーション能力、自己肯定感等、不足しがちな力を育むための体験や交流機会が重要
- 4) 地域の取組の活性化
  - ・地域の課題に応じた取組の活性化や地域資源の活用

## II. 家庭教育支援のあり方

### 基本的な方向性

- 1) 親の育ちを応援する
  - ・発達段階に応じたかかわり方についての学習が必要
- 2) 家庭のネットワークを広げる
  - ・子育て家庭の人間関係を広げていくことが重要
- 3) 支援のネットワークを広げる
  - ・地域人材と専門支援をつなぐ仕組みづくり

### 重要な視点

- 1) 親の主体性を尊重し、支援の循環を生み出す
  - ・親の意欲を高め、支え合う
- 2) 子どもも家庭や社会の一員として役割を持つ
  - ・子どもの発達資産形成の観点から支援や協力が必要
- 3) 子育て家庭を支える人間関係とシステムを持つ地域づくり
  - ・地域コミュニティの創造と地域の活性化

## III. 家庭教育支援の方策

### 1) 親の育ちを応援する学びの機会の充実

#### ○親の育ちを応援する学習プログラムの充実

- ・体験型・ワークショップ形式の学習
- ・虐待予防に資する子どもとのコミュニケーションやストレスの対処方法及び震災後の心のケアなど社会的課題への対応

#### ○多様な場を活用した学習機会の提供

- ・子育てひろば等への学習プログラムの提供、ファシリテーター派遣などの乳幼児期の子育て支援の充実
- ・学級懇談会等を活用した親の学び合い・共同学習
- ・企業への出前講座、父親の学びと参画促進

#### ○将来親になる中高生の子育て理解学習の推進

- ・乳幼児との触れ合い活動

### 2) 親子と地域のつながりをつくる取組の推進

#### ○家庭を開き、地域とのつながりをつくる

- ・NPO等によるカフェ形式の交流の場や親子参加イベント

#### ○学校・家庭・地域の連携した活動の促進

- ・学校支援活動や放課後子ども教室に保護者等を巻き込む取組

### 3) 支援のネットワークをつくる体制づくり

#### ○地域人材による家庭教育支援チーム型支援の普及

- ・小中学校区等を単位としたチーム型支援の普及
- ・活動拠点の提供や研修機会の提供等の環境整備
- ・主任児童委員との連携によるアウトリーチ活動の充実

#### ○課題を抱える家庭に対する学校と連携した支援の仕組みづくり

- ・生徒指導等と連携した家庭への訪問や相談対応
- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携
- ・高校中退者の家庭に対する親の相談対応等

#### ○人材養成と社会全体の子育て理解の促進

- ・ファシリテーター等の養成、専門的助言、人材認証・登録
- ・サポートの役割が期待される高齢者等の学びの機会の提供
- ・企業による親子参加行事や職場体験活動への協力

### 4) 子どもから大人までの生活習慣づくり

- ・企業と連携した生活習慣づくり
- ・生活の自己管理が可能になる中高生向け普及啓発

## IV 国と地方自治体の役割

○市町村 家庭教育支援活動をコーディネート

○都道府県 広域的ネットワーク構築、人材養成等

○国 基本的方向性を示し、取組の普及や向上を図る

○保健福祉等の関連分野と家庭教育支援の連携